

緑のセンターだより



No.143

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 25 年 8 月 1 日



緑のセンターまつり 2013 のお知らせ

平成25年8月4日(日) 10:00~16:00 神楽岡公園・緑のセンター



催し物：青空体験教室、花と緑の相談コーナー、園芸市、球根・花苗(旭川市を緑にする会提供)プレゼント



フラワービンゴゲーム、親子餅つき大会、ハンキングバスケットコーナー、農産物即売、納涼ビアガーデン、

よさこいソーラン演舞、神楽岡太鼓演舞、旭川農業高校生による販売実習… BINGO で当てよう!!

展 示：洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花サークル(一部即売あり)

*午前・午後に各先着 200 名さまにハスカップの苗・チューリップの球根プレゼント!



ステキな景品が
いっぱい!

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の 20 日から)

「神楽岡公園を知ろう」-巨木と木の身体検査-

とき 平成 25 年 8 月 8 日 (木) (小・中・一般)

午後 1:30~3:30 先着 30 名

講師 旭川みどり 21 の会代表 成田一芳さん

「フリムラと春咲き球根の寄せ植え」(実習)

とき 平成 25 年 9 月 15 日 (日) 教材費 600 円

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 相談員



〈 連続講座のお知らせ 〉 講義と実習

第 4 回目 9 月 29 日「秋植え球根の植え方と花壇作り」

-神楽岡公園の花壇植付け-

第 5 回目 10 月 27 日「かんたん腐葉土作り」

-落ち葉集めと腐葉土作り-



「庭木の冬囲い」(実習)

とき 平成 25 年 10 月 13 日 (日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 協会職員

New

展示会のご案内

(初日は午後から、最終日は 4 時まで)

「押し花展」8 月 4 日~25 日

出展：つくしんぼ押し花サークル

「花壇コンクール写真展」9 月 1 日~16 日

出展：花フェスタ実行委員会

【休館日のご案内】

4 月~10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11 月~3 月は毎週月曜日が休館日です。(")

〜くつろぎカフェ〜

9 月 27 日~30 日 13:00~15:00

(9 月 29 日のみ 12:30~15:30)

☆ハーブティーセラピストによる

茶葉の効用、抽出の仕方、種類…

受講料 100 円 試飲あり



〈園芸の基礎知識〉 家庭園芸の肥料

～ ② 肥料成分の働き ～

植物の生育に不可欠とされている元素は16あります。このうち酸素、水素、炭素は空気や水から吸収されますが、残りの13種類は肥料として施用が必要となります。

特に多量に必要なのがチッ素、リン酸、カリで、これを「三要素」といいます。次に必要とされているのがカルシウム、マグネシウム、硫黄でこれを「中量要素」といい、要求量の少ない鉄、ホウ素、マンガン、亜鉛、モリブデン、銅、塩素を「微量要素」と呼んでいます。

植物の生育に必要な16の成分

空気・水から 得る成分	根から吸収する成分			
	三要素	中量要素	微量要素	
酸素 (O)	チッ素 (N)	カルシウム (Ca)	鉄 (Fe)	モリブデン (Mo)
水素 (H)	リン酸 (P)	マグネシウム (Mg)	マンガン (Mn)	銅 (Cu)
炭素 (C)	カリ (K)	硫黄 (S)	ホウ素 (B)	塩素 (Cl)
			亜鉛 (Zn)	

三要素の働き

チッ素は、茎葉や根の生育を促進する「葉肥」といわれています。リン酸は開花・結実に役立つ「実肥」といわれ、過剰障害の心配はありません。カリは根の発育を促進するため「根肥」といわれ、病気や寒さに対する抵抗性をつける作用もあります。

[参考資料:住友化学園芸「肥料の基礎知識」]

緑の相談 Q&A (17)

シクラメンの植替えについて教えてください。

シクラメンの生育適温は日中 20℃、夜間 12～15℃と冷涼な気候を好みますが、開花後も適温で管理すると葉を落とさないで夏越しが可能です。高温、乾燥に遭うと葉が枯れて休眠します。

[時期]・夏越しをした株は、気温が下がる9月頃より旺盛な生育期となるので、その前の8月中・下旬に植替えを終わらせておきましょう。

[用土]・通気性、排水性、保水性の良いものを用意する。

例 赤玉土5：腐葉土3：火山礫2

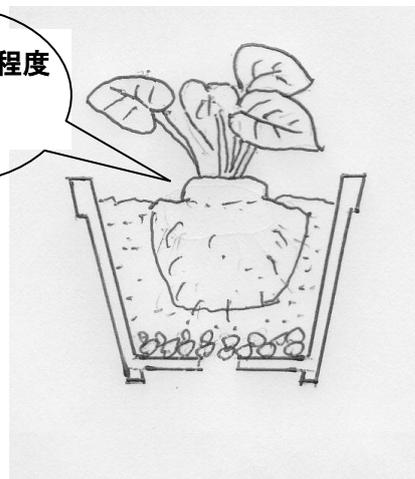
・緩効性肥料を3g程度/用土1ℓ当り混入する。

根鉢は葉や球根を傷めないように扱う！

[植替え作業]

- ・同じ大きさか、一回り大きい鉢を用意する。
- ・鉢から根を抜き、葉や球根を傷めないように根鉢の肩、周辺、底の土を1/3程度崩す。
- ・用意した鉢に新しい土を突きながら加える。
- ・球根は1/3程度地表に出す。最後に水を鉢底から流れ出るくらい十分に与える。

球根は1/3程度地表に出す



[植替え後]

- ・3週間くらい半日陰で養生する。
- ・その後日当りのよい場所に置き、薄めの液肥を与える。

[参考資料:北海道新聞社「北で育てる魅力の花」ほか]

植物の病害虫

その17 「ナメクジ・カタツムリ（ウスカワマイマイ）類」

春から秋まで湿気のある場所を好み、近くの野菜や花など多くの植物を食害します。



マリーゴールドを食害するナメクジ



ナメクジの食害痕



カタツムリ(ウスカワマイマイ)

1 寄生しやすい植物

はくさい、キャベツ、だいこん、その他のアブラナ科野菜、ばれいしょ、なす、にんじん、花き類などを加害します。

2 被害

成体、幼体ともに葉、花、果実の軟らかい部分を食害しますが、葉では葉脈を残して網目状となり、這った跡は粘液が乾いて白く見えます。

3 生態

ナメクジやカタツムリ（ウスカワマイマイ）は土塊や石、朽木、落葉の下など湿気のある場所に潜み、成体で越冬し、5月頃から活動します。年1回の発生とみられ、初夏に白色のガラス玉のような卵30～50粒を小枝、雑草、石の下などに産みます。多湿で有機物の多い場所を好み、夜間に活動します。

カタツムリ（ウスカワマイマイ）は日中晴天時には地際や地中浅く潜み、夜間や曇天、雨天に食害します。雌雄同体で産卵は夏で1頭が100～300粒を約30粒ずつ一塊として地中3～5cmに産み付けます。卵期間は2～3週間で、ふ化した幼貝は秋まで食害を続け、成長の早いものは年内に成貝となり、遅いものは幼貝のまま地中で越冬します。

5 防除法（ナメクジ、カタツムリ共通）

- (1) 常発地は採光、通風により、乾燥させ、また未熟有機物の施用を避けます。
- (2) ナメクジ駆除剤の植物周辺散布が有効です（ナメクジ駆除剤のうち、メタルデヒドを含む製剤は製造中止になりました）。
- (3) 銅イオンを忌避するので、銅線によるバリケードをしたり、銅くずを浸しておいた水を散布したり、ボルドー液の散布なども一時的な被害回避策として有効です。
- (4) 作物を作付け前に石灰資材を施し、酸性土壌を中和させます。石灰窒素の表土混和も一時的な被害回避に有効です。

多肉植物の夏期管理

乾燥した厳しい環境に耐えるため、根や茎、葉を肉厚にして発達させた植物を「多肉植物」と呼びます。世界中に数千種分布していると言われるほど数が多く、姿、形が変化に富んでいるのが特徴です。そのほとんどが園芸的な観賞価値があり、園芸品種も多く作出されています。

奥深い多肉植物の世界へ一歩踏み込んでみましょう。生育地の性状を考えると容易に育てられる植物の一つです。

入手したら、先ず生育型を把握！ (3つの生育型を知ろう)

- ・夏型種 夏に生育し、冬に休眠・生育停止します。暑さに強いものの、寒さに弱いため、断水して冬越しさせます。代表種はアデニューム、アロエ、カランコエなど
- ・春秋型種 春と秋に生育し、夏と冬に休眠・生育停止します。高温多湿を嫌う種類が多いため、水やりを減らして夏越しさせます。代表種はベンケイソウ科の多肉植物のほとんど。
- ・冬型種 冬に生育し、夏に休眠・生育停止します。寒さに強いわけではなく、生育気温は10~20℃くらいです。高温多湿に弱いため、なるべく涼しく夏越しさせます。代表種はメセン類。



セダム・トレレアシー（ベンケイソウ科セダム属）

生育状態で管理を変える。

- ・生育期 日当たりと風通しの良い場所で管理します。用土の表面が乾いたら水をたっぷりと与え、肥料を少量施します。
- ・休眠・生育停止期 明るい半日陰で管理します。根腐れや株の傷みを防ぐため、水や肥料を与えません。
- ・生育緩慢期 生育期（休眠・生育停止期）と同じ場所で管理し、生育期より間隔を明けて水やりを行います。肥料は施しません。

寿命が長い多肉植物、何年もかかって大きく育てる楽しみ！

大きく分けて**鉢物系**（ガステリア、メセン類など）、**ロゼット系**（エケベリア、センペルビウム（巻絹）など）、**コーデックス**（塊根植物）（アデニューム、火星人、亀甲竜など）の3系統があります。

（※参考資料、NHK趣味の園芸 多肉植物から）

展示室の植物（50）

アロエ・アルボレセンス

（和名 キダチロカイ 別名 医者いらず、キダチアロエ）

ユリ科 アロエ属

この属はアメリカ大陸を除く世界に300から400種があり、その大部分はアフリカ大陸とマダガスカル島にあるといわれています。多年生多肉植物で高さが20メートルの巨大なものや10cm未満の小型のものまで多様です。

この種は明治期に渡来して「医者いらず」として親しまれ、胃腸ややけどなどの薬用植物として有名です。単にアロエというと本種をさすほどです。

このほかアロエ・ベラなど園芸種（薬用、食用）で知られている種もあります。



（アロエの花）